

絶望も一周回って面白い

——自己紹介をお願いします。

ユー・ダイド 4人組でグローバルYouTuberとして活動しているニシコリと申します。おのおのキャラがあり、僕が「英検3級」。マークが「イギリス人」で、ジュンジが「ブラジル人」。ケイタが「青森県民」。大学1年次からの「イツメン」です。3年次の時にコロナ禍にぶつかりまして。その時に僕から「YouTubeやらないか」と話し、4年次に上がる時期に休学を決意して、本格的に活動を始めました。

——出会いは1年次の「専修大学入門ゼミナール」だとか。

ユー・ダイド 僕とジュンジとケイタが同じ入門ゼミ、マークと裏方のケースケが一緒の入門ゼミでした。

ケイタ ジュンジと僕が入学式に一緒に行って。

ユー・ダイド 入門ゼミってものがあるから、そこでちゃんと友達ができ、YouTuberになった。専修大学に仕組まれた運命ですね(笑)。

——活動のきっかけがコロナ禍だったとのことでしたが。

ユー・ダイド ここまで世界が変わるのかという恐怖もありましたけど、何かこう、ワクワクみたいなのもあったりして。そのころ、長期インターンや就職活動をやっていた自分を俯瞰して見た時に、これぐらいのことで世界が変わるんだったら、本当に好きなことに挑戦した方がいいって思うようになって。え、ワクワクしてなかった? あの時期。

ジュンジ いや、絶望しすぎて一周回って、面白い。予定していたことが全部崩れたから。

マーク でも、その時に初めてのものがたくさんあったんですよ。リモートとか。その延長でYouTubeがあったので、そこから膨らんでいく面白さはありましたね。

ジュンジ それぞれ目指していたキャリアがあって、僕は外交官の試験を受けるための準備をしていた時期です。

マーク 一般企業を3社ほど面接していた状況の中で突如決まったYouTube活動。かなり難しい決断でしたね。ただ、すぐ決めました。友達と一緒にいる、感覚的なところが働いたんでしょうかね。

ケイタ 僕も就活してたんですけど、なんかいまち振り切れなくて、YouTubeでやっていく覚悟はそこまで決まっていなかったんですけど。なんとなくYouTubeの方がやりやすかった。

——今の方向性が決まったのは。

ユー・ダイド 2021年の2月ですね。その前の夏からTikTokを始めていました。ケイタが津軽弁を、ジュンジがポルトガル語を話せるよね、といった自己分析をしていて。ふと、この言葉同士でしゃべったら面白そうじゃない? っていうので、15秒ぐらいの縦型動画を撮って上げてみたら、それが初めて僕らの中ではバズと呼ばれる状況になりました。「キタこれだ!」ってなって。そこから、言語の特性を生かした企画動画の作成を始めました。

4年間は視点を増やす時間

——発信するうえで心がけていることは何ですか。

ユー・ダイド ネガティブな発信をしないようにしています。中身についても、僕らにしかできないコンテンツ、いわゆる差別化っていうものを特に心がけてやっています。編集やメンバーの個性、言葉、そういうところは強みというか。僕らだけしかできないのかなって思っていますね。

ケイタ そうですね。一瞬の面白さよりは、先まで見据えた関係性を大事にします。

ジュンジ ニシコリのような、大学で出会って、という関係性のインフルエンサーは比較的少ないんですよ。僕としては、大学で出会ったからこそそのメリットを感じています。親子仲にも礼儀あり、といったことはニシコリはできてるなって思っんです。気遣いが友情に反映できてると思います。

マーク 大学時代って、もちろん知識を得るための4年間でもあるんですけど、視点を増やす時間でもある。それを終えた状態でのYouTubeなので、コンプライアンスとか、線引きっていうのは心がけています。

2年の授業楽しいよね!

——大学時代の思い出は。

ジュンジ 濃い印象で言ったらやっぱりケイタの家。自分の家よりケイタの家に行っていました。

ユー・ダイド ケイタの家は大学に近くて、だから授業終わりに吸い込まれるようにケイタん家行って、1回寝て、1回向ヶ丘遊園駅前にラーメン食べに行って、で、おなかいっぱいになったし、1回ケイタん家戻るか(笑)。

ケイタ 全然帰らないんですよ。

マーク 実家暮らしの僕も、めちゃくちゃ通ってました。みんな行くんだったら、じゃあ僕も。

ケイタ 泊まれすぎて、もう今日は1人にさせてくれて。

一同 笑

マーク ケイタの家の思い出は、たくさん話せる。1時間でも2時間でも。

ユー・ダイド でも授業楽しかったよね。2年の授業楽しかったですね。

ジュンジ 本当に楽しかったんですよ。

ケイタ 授業も面白いし、それを受けている自分にも自信が持てるんですよ。

【グローバル YouTuber】

ニシコリ

専大で出会った

奇跡

専大校友を訪ねて

Special

YouTube
チャンネル



ブラジル人
ジュンジ

英検3級
ユー・ダイド

青森県民
ケイタ

イギリス人
マーク



ジュンジ 「そんなことより2年の授業楽しいよね」っていうのが当時の流行語。国際経済論とか必修系の科目になると、みんな集まるじゃないですか。それも楽しくて。でっかい10301教室で、授業も楽しいしみんなの顔も見れるし。

ユー・ダイド あと、ゼミが始まって、より専門的になったりして。

ジュンジ 2年次は本当に青春でしたね。だから3年次、めっちゃ楽しみにしていたところで、パンデミックが来て大学行けないっていう。絶望だったけど、だから一周回って面白いなって。

マーク うん、そう。ネガティブな状況を面白いことに変える。それは昔から、今でも変わらずやっていることですね。

クリエイターとしての覚悟

——動画の話に戻ります。企画や撮影はどのようにしているのですか。

ユー・ダイド システムとして決めていますね。企画を考える人がいて、それをブラッシュアップするフェーズ、全員に共有するフェーズがあって、編集まで全部フローにしています。

ジュンジ これをできてるのも、大学で出会ったからなんですよ。

ケイタ システムでできるように、ユー・ダイが頑張ってくれました。

ユー・ダイド 卒論もそんな内容を書きました。

マーク ノリだけでやっていたら僕は脱退していたと思います。

——2025年は専大での動画撮影も多数行いましたね。

ユー・ダイド 3月に「母校の大学を再受験してみた」という動画を上げたんです。そこで初めて専大卒だと明かしました。クリエイターとして生きていくんだっていう覚悟を持った動

画だったんです。反響も大きく、これをきっかけに大学とつながることができました。ひとえに僕たちがこの大学で出会えたこと。そして、全員が卒業して、今こうやって一緒にいろんなことができていること、専修大学を愛しているという気持ち、そういったことがあったからこそだと思っています。大学で撮影させてもらった動画には、在学生や受験生からも良いコメントが多く寄せられていて、励みになっています。

——2026年の目標は。

ユー・ダイド 3月31日までにチャンネル登録者数100万人という目標をチームで掲げています。

——それに向けて改めてPRを。

ユー・ダイド Yeah! Of course right now! YouTubeのほかにはラジオの配信もやっています。グッズも展開していて。僕らのクリエイティブな部分を生かした、面白いグッズで、視聴者の皆さんの人生を豊かにしてほしいと思います。イベントもあるので、チェックしてください。

マーク メインチャンネルで「ニシコリ全史」という動画が11月末に上がっているの、詳しく知りたい方はぜひそちらの動画をご覧ください。

大学生生活、めちゃくちゃ楽しんで

——専大生にメッセージをお願いします。

ジュンジ 専大のキャンパスライフは本当に充実していました。授業も遊びも友達も、楽しみ方がほんとにたくさんありました。ぜひ、いろんなことに挑戦してみてください。

ケイタ あんまり気負わず大学生の「今」を楽しんでほしいです。卒業してから振り返ると、大学生活って本当に輝いて見えるんですよ。僕らはコロナ禍で制限が多かったの、

もっと楽しみたかったという思いがあります。だからこそ、めちゃくちゃ楽しんでほしいです。

ユー・ダイド その楽しむチャンスが、専修大学にはたくさんある。のびのびとキャンパスライフを送れて、自分を表現できる場所がたくさんある。授業、サークル、先生、教室、食堂、そして友達。そういう中で自分の可能性を追求し、成長につなげられるような大学だと思うので、たくさん挑戦してほしいですね。

マーク 卒業してから思うのは、「胸を張ってほしい」。もうその一言ですね。うん。別にここに書いてるからってわけじゃないですよ(メンバーが入学した2018年のニュース専修4月号掲載の日高義博理事長=当時=の祝辞を見ながら)。元々言おうと思っていたものが奇跡的にここに書いてあった(笑)。専大生として胸を張ってほしいです。はい。

——では、いつも通りに締めさせていただいてもよろしいですか。

ユー・ダイド OK Today's interview is very good idea. うん、good goodでしょ。Thank you so much.

一同 Nice to meet you guys.

